

## 大日本帝国の戦争

### — 膨張・戦争・侵略の77年と反省・隠蔽・忘却の77年 —

山田 朗（明治大学平和教育登戸研究所資料館長／歴史教育者協議会）

#### はじめに（本報告の目的）

- [1] 2022年：戦前（明治維新～敗戦）と戦後（敗戦～現在）は77年で同じ長さにこれを戦争の77年と平和の77年と2項対立的に捉えて良いのか？
- [2] 戦後77年は、戦前77年に規定されつつ、それを克服しようとしてきた。
  - 何故、克服（反省）しきれないのか。
  - 歴史上の事実が隠蔽され、直視されないままに、忘却されつつある。
- [3] 膨張・戦争・侵略の77年と反省・隠蔽・忘却の77年
  - 何が反省され、何が隠蔽され、何が忘却されつつあるのか？

## I 戦後を規定し続ける戦前

### 1 大日本帝国の戦争の始まり

#### [1] 近代日本の膨張主義

- ① ロシア脅威論にもとづく膨張・軍拡論の始まり（1870年代から）
- ② 「主権線」（国境線）防衛ためには「利益線」を確保する、という戦略発想
  - 吉田松陰以来の膨張論、福沢諭吉以来の脱亜論
  - 朝鮮半島確保（先取）をねらう日清戦争（1894-95）
- ③ 軍事大国との同盟路線の始まり
  - ロシアに備えるための日英同盟（1902）
  - 日露戦争の戦費の半分近くを英米から調達

#### [2] 「成功事例」とみなされた日清・日露戦争

- ① 領土・賠償金を獲得した日清戦争
  - 脱亜論とともに日本人の中国観・アジア観を差別的なものへ変える
- ② 朝鮮半島を確保し満州に足掛かりを作った日露戦争
  - 満州をめぐる日米対立の始まり
- ③ 北進・膨張路線の定着
  - 「一等国」日本の成立：大国意識の拡大
  - 朝鮮半島 → 南満州 → 北満州 → 華北という膨張と海外棄民
  - 対華21カ条要求（1915）：大陸でのさらなる権益拡大を目指す

### 2 満州侵略・日中戦争へ

#### [1] 「成功事例」とみなされた「満州事変」

- ① 中国における国家統一の動き（国民政府による北伐）を加速（1920年代後半）
  - 満州の権益を確保しようとする危機感：「満蒙は日本の生命線」
  - 満蒙武力占領計画の始まり：北伐阻止（山東出兵）と張作霖爆殺（1928）
  - 日露戦争25周年キャンペーン（1930）
- ② 満州事変（1931）と「満州国」建国（1932）……………平頂山事件
  - 第二の「満州国」をねらう華北分離工作の活発化
  - 盧溝橋事件を発端にして日中全面戦争に（1937）……………南京大虐殺

### 3 日中戦争・三国同盟・世界戦争へ

#### [1] 日中戦争の長期化・泥沼化（1938～）

## 【第7回】 知ること未来が見える 戦争の加害 パネル展 2022 【2】

- ① 「華北分離」から蒋介石政権打倒へと目的がエスカレート……………重慶爆撃  
→ 華中・華南に利権を有し、蔣政権を支援する英・米との対立激化（1939）  
→ 日中戦争は、間接的に日本 vs 中・英・米の世界戦争に
- ② 軍事同盟＝日独伊三国同盟を結んで英・米の圧力を突破しようという動き

### 【2】 日中戦争から世界戦争へ（1940～）

- ① 三国同盟締結（1940）、それを背景に武力南進（北部仏印進駐）へ  
→ 戦争遂行中のドイツとの同盟により、対英米戦争は不可避に  
→ 対英米戦争を遂行するためには南進（資源地帯の確保）が必要
- ② 対英米戦争の始まり……………マレー侵略・華人虐殺  
→ 中国が連合国の一国となったことで日中戦争の勝利の見込みなくなる  
→ 12倍の国力（GNPと鉄鋼生産）を有する米国との戦争  
生産力と輸送力が決め手の戦争に  
ガダルカナル以降の大消耗戦（1942～43）で国力・戦力枯渇  
→ 1943年末以降の米軍・英軍の攻勢を支えきれず  
→ 一般住民を無視した作戦指導……………沖縄戦

## 4 「大東亜共栄圏」における加害

### 【1】 領土的膨張の意図

重要資源の供給地は日本領土に編入することを決定（1943.5）

### 【2】 アジア諸国民の被害

- ① アジア諸国の人的・物的被害 → 【資料1】
- ② 各国のさまざまな事情と被害  
ベトナム・インドネシア・マレーシア・シンガポール・フィリピン

### 【3】 アジア太平洋戦争下の植民地・占領地支配の特徴

- ① 皇民化政策の徹底（朝鮮・台湾では日中戦争以降に強化）  
→ 日本語教育の徹底（朝鮮では民族言語の追放・禁止）  
→ 日本式イエ制度の導入 → 朝鮮「創氏改名」（1940）、台湾「改姓名」
- ② 資源・食糧の収奪  
→ 軍票の濫発（全占領地）、偽札の大量散布（中国）
- ③ 労働力の収奪（植民地・占領地から）……………朝鮮人・中国人強制連行  
→ 日本国内の軍需工場や建設現場へ：朝鮮徴用工・中国人捕虜  
→ 「総兵站基地」となった中国・満州へ：中国各地における「劳工狩り」  
→ 日本軍占領地へ：「労務者」・日本軍「慰安婦」など……………泰緬鉄道建設
- ④ 軍事力の補充  
朝鮮：1943年8月より「兵役法」施行、1944年より徴兵  
台湾：1944年「兵役法」施行、1945年より徴兵  
「満州国」：1940年4月に「国兵法」施行、1941年より徴兵  
インドネシアなど：兵補の採用

## II 戦後における反省・隠蔽・忘却

### 1 現在に残されているもの

#### 【1】 戦争・植民地支配に対する戦争責任問題

- ① 戦犯裁判による被害者意識の定着
- ② 責任をとらなかつた真の責任者  
→ 一部の陸軍軍人に全責任を負わせた東京裁判 → 【資料2】  
→ 天皇、海軍・内務省人脈の復権

〔2〕 国内・植民地・占領地における戦争被害に対する戦後補償問題

- ① 人的・物的損害への補償はなされておらず、裁判も全て門前払い
- ② 補償対象になっているのは旧軍人・軍属のみ

〔3〕 歴史認識問題

- ① 植民地支配・占領地支配の記憶の希薄化、未継承……朝鮮人虐殺（1923）
- ② 占領地支配の問題点（強制労働・独立運動の弾圧・捕虜虐待）の未継承
- ③ 近隣諸国・旧支配地の人々との歴史認識のギャップの拡大
  - 歴史修正主義の拡大
  - 史実解明・責任問題・補償問題・歴史認識問題の連動性

2 戦前の何が反省され、何が隠蔽されたのか

〔1〕 反省の証としての憲法9条

- ① 軍事大国にならないという国際的公約としての9条
- ② 9条を支えてきた日本人の意識
  - 再軍備・改憲論を押し戻した平和運動の高揚（1954～1960）
  - 政府も非核3原則、武器輸出3原則、「専守防衛」、GNP1%枠、集団的自衛権否認を言わざるをえず（～1970年代）
- ③ 平和主義の土台：被害を中心とした戦争認識
  - 日中国交回復（1972）を契機に加害が意識され始める

〔2〕 何が隠蔽されたのか

- ① 隠蔽の端緒としての731部隊関係者への免責……731部隊・生物戦・化学戦
  - 1946末 ソ連、石井四郎らの身柄引き渡しを要求
  - 1947.4-6 石井四郎、部隊員の戦犯免責を条件に人体実験データ提供を申し出
  - 1947.10-12 米本国に731部隊員の保護を求めるヒルレポートが作成される
  - 1947.7.15 米3省調整委員会極東小委員会、731関係者免責と秘密扱いを決定
  - 1947.8.1 同小委員会、**生物戦データの価値は戦犯訴追より重要**と勧告
  - 1948.4～ 731部隊関係者に免責と「口止め」が伝えられる → **【資料3】**
  - 免責措置は731部隊だけでなく、人体実験実施の各機関にも拡大
  - 加害の事実が隠蔽されていく
- ② 中国戦線・植民地・占領地における加害事実の隠蔽
  - 戦時中から中国からの帰還兵には「箝口令」
  - 戦後においても長らく中国戦線や占領統治の実態は伝えられなかった
  - 加害の事実が伝わるのは、被害者が声を上げるようになってから

3 戦前の何が忘却されつつあるのか

〔1〕 戦争・植民地支配・占領地支配の記憶

- ① 体験世代の減少
- ② 非体験第1世代の引退、記憶の非継承
  - 体験世代が残した1次資料の消滅

〔2〕 残された文書資料・映像資料の存在

- ① 体験世代が戦後に残した回想・手記などの死蔵
  - 残されたものが活用されていない
- ② 国内外に所蔵されている映像資料がまだまだ活用されていない

〔3〕 継承性に重点をおいた歴史教育

- 非体験第2世代以降に教え込むのではなく、気付き主体的に調べる歴史学習を
  - 戦争遺跡・博物館などモノの重要性
  - 地域に刻まれた歴史を掘り起こす体験を

## 【第7回】 知ること未来が見える 戦争の加害 パネル展 2022 【4】

### おわりに（本報告の結論）

- [1] 戦後は戦前に強く規定されている。  
知らず知らずのうちに私たちを支配している戦前的なるもの。
- [2] 反省の中身と問題点（被害と加害のバランス）
- [3] 忘却から再生・継承への道

### 【参考文献】

- [1] 吉田裕『日本人の戦争観』（岩波書店、1995年／岩波現代文庫、2005年）
- [2] 笠原十九司『日中戦争全史』上下（高文研、2017年）
- [3] 山田朗『日本の戦争：歴史認識と戦争責任と』（新日本出版社、2017年）
- [4] 山田朗『帝銀事件と日本の秘密戦』（新日本出版社、2020年）
- [5] 常石敬一『731部隊全史：石井機関と軍学官産共同体』（高文研、2022年）
- [6] 吉中文志編『七三一部隊と大学』（京都大学学術出版会、2022年）

### 【資料1】 アジア諸地域の戦争被害（死者・経済的・物的損害額、日本が獲得した資源）

地域	死亡者（人）	損害額（\$）	日本が獲得した鉱産資源／食糧など
日本	3,100,000 以上		
朝鮮	約 200,000	不詳	鉄鉱石／米／大麻
中国	10,000,000 以上	5,000 億	（中国本土）鉄鉱石、石炭、ボーキサイト、タングステン／小麦／綿花、大麻 （「満州国」）鉄鉱石、石炭、ボーキサイト／小麦、大豆、とうもろこし、羊毛／大麻
台湾	30,000 余	不詳	米、砂糖
フィリピン	約 1,110,000	58 億 5,000 万	鉄鉱石、クローム、銅、マンガン／砂糖／マニラ麻、コプラ
ベトナム	約 2,000,000	不詳	石炭、タングステン／米、とうもろこし／ジュート
タイ	不詳	不詳	錫／米
ビルマ	約 150,000	不詳	タングステン、ニッケル、石油、鉛、亜鉛／米、落花生、とうもろこし／ジュート
マレーシア・シンガポール	100,000 以上	不詳	錫、鉄鉱石、ボーキサイト、タングステン／ゴム
インドネシア	約 4,000,000	数十億	石油、ボーキサイト、ニッケル、石炭、錫／砂糖、とうもろこし／ゴム、キニーネ、コプラ
インド	約 1,500,000	不詳	
オーストラリア	17,744	不詳	
連合軍捕虜	約 6 万数千	オーストラリアの死者のうち約 8,000 と重複。	
合計	日本をのぞく死者：1,900 万人以上		

出典：人的・物的被害は、原則として政府の公式発表の数字（「アジア太平洋戦争の被害」『世界』1994年2月号所収）。日本が獲得した資源は、岡部牧夫『大東亜共栄圏』その資源・日本軍の加害と被害』（『週刊』

## 【第7回】 知ること未来が見える 戦争の加害 パネル展 2022 【5】

朝日百科・日本の歴史』第119号、1988年7月31日)による。

### 【資料2】 GHQボナ・フェラーズ准将の米内光政への発言 (1946年3月6日)

自分〔フェラーズ〕は天皇崇拜者ではない。したがって十五年二十年さき日本に天皇制があろうがあるまいが、また天皇個人としてどうなっておられようが関心は持たない。しかし連合軍の占領について天皇が最善の協力者である事を認めている。現状において占領が継続する間は天皇制も引き続き存続すべきであると思う。

ところが困った事に、連合側の或る国においては天皇でも戦犯者として処罰すべしとの主張強く、ことに「ソ」は其の国策たる全世界の共産主義化の完遂を企図している。したがって、日本の天皇制とMC〔マッカーサー〕の存在とが大きな邪魔者になっている。

加うるに米において非亜米利加式思想が当局の相当上の方にも勢力を持つに至って、天皇を戦犯者として挙ぐべきだとの主張が相当強い。

右に対する対策としては、天皇が何等の罪のないことを日本側が立証してくれることが最も好都合である。そのためには近々開始される裁判〔東京裁判〕が最善の機会と思う。ことに、その裁判において東条に全責任を負担せしめるようにすることだ。

即ち東条に、次のことを云わせて貰いたい。

「開戦前の御前会議において、たとい陛下が対米戦争に反対せられても、自分は強引に戦争まで持っていく腹を既に決めていた」と。

米内 同感です。

出典：高田万亀子「新出史料からみた『昭和天皇独白録』」『政治経済史学』第299号(1991年)。

### 【資料3】 731部隊関係者の免責について (1948年7月26日)

元軍医大佐 早川清〔255頁〕〔中略〕

生体解剖に就て

帝銀事件が発生した頃は未だ進んでいなかったけれ共〔256頁〕／最近に至ってGHQの吉橋と云ふ二世を通じて私達の身柄を／保障して呉れると米軍では申し若し米ソ戦争が開始された／際には身柄は早速米本国へ移す事になっていると聴いている。／細菌戦術の優れた点も幾分認めて居るらしい。〔中略〕

当時使用した薬物方法・人員等につき聴くに／

GHQで調査された際関係者同志事件については絶対口外／せぬ様誓約したのであるから勘弁して呉れとの事で語らなかった

生体解剖の件も戦犯にならぬ事が最近判ったので申した次第で／すと附言す (GHQでは本件に関しては秘密を厳守するがお前達の方から墓穴を掘る様な事の／無様 警察官の中にも共産党あり 警察官にも口外せざるとの事である 何万かの部下／を保護する為にも)

出典：捜査一課係長・甲斐文助『帝銀事件捜査手記』別巻 (再審弁護団所蔵) 255-257頁。／は原文の改行。